

住むところをつくる ～住まいと防災について～

東京都文京区立駕籠町小学校

実施学年：5年
 生徒数：24人（1学級）
 実施教科：総合的な学習の時間
 実施時間数：4時間（2時間 × 2日間）



建築家による世界各地の住まいの話



ワークショップ形式で耐震の紙模型を作る



作った模型を使い実験する

学習のねらい

テーマ：＜住まいと社会＞

- ・ 住まいと環境とのかかわりについて考える。
- ・ 建築家の仕事に触れる。
- ・ 家やまちの防災について考える。
- ・ 実際に耐震の紙模型を作り、耐震・免震のしくみについて理解する。

学習活動

＜1日目＞

- ・ 世界の住まいについて考える。
 - ・ 建築家の仕事について知る。
- （宿題）
- ・ 家やまちの防災について考える。

＜2日目＞

- ・ ワークショップ形式で耐震の紙模型を作る。
- ・ 模型をつかって、耐震・免震のしくみを理解する。

準備品

電子黒板、ノートPC、世界地図、スライド、建築模型、教材「紙ぶるる・・・」

実施場所

文京区立駕籠町小学校 3階閲覧室

学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>閲覧室</p> <p>1 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桜木先生のあいさつ —この授業について ・ 世界の住まいについて考える (講師：文京建築会 薩田氏) ①モンゴルの住まい： 草原地帯狩猟民族、 移動住居、ゲルの構造 ②中国の住まい： モンスーン地帯（季節風） 棚田の風景 傾斜地に立つ木造の建築、 ③イタリア ベネチア： 水上生活 石の建築 ④ボリビア：高地の住まい 標高 4000m の生活 現地の人と作った土の学校 		
<p>閲覧室</p> <p>2 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築家の仕事について知る —実際に設計した家のスライドを見る ：白山の家、玉川上水の家 —住宅の模型に触れる ・ 桜木先生からの問い —家をつくる際の工夫 ：家を設計する人（建築家）は、 どんなことを考えて家をつくるの だろうか？ —児童 ：間取り、風通し、光の入り方、 丈夫さ等、様々な答えがでる ・ 桜木先生よりまとめ ・ 次回への宿題について ：「防災」という面から自分たちの 廻りの住まいやまちに作られてい るものを考えてくること —消火器、ベランダの界壁 —家具転倒防止金物 —ビルの外壁の斜材 など <p>(第1日め終了)</p>		

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>閲覧室</p> <p>3 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桜木先生のあいさつ —簡単な導入 ・ 建築家石井氏の話 —前回のおさらい スライドの国名と家の特徴 —紙ぶるるを作る 目的と作り方の説明 ・ 作業開始 —筋交いを入れないところまで作る —揺らしてみる —2Fの筋交を入れて揺らす —1Fも筋交を入れて揺らす —屋根にクリップをつけ、揺れ方を比較する 	 	
<p>閲覧室</p> <p>4 時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験) 免震のしくみについて理解する —下敷きを使って揺らす —桜木先生からの問い 免震装置としての下敷き・鉛筆のどれが効果があるか？ —児童達の答え ・ 石井氏より、上記の解説と免震についてのお話 ・ 児童：紙ぶるるの実験で気づいたことをノートに書く ・ 前回の宿題について ワークシートに書いてきた宿題を全員1つずつ発表する —家の中の防災対策 —町で見かけた防災対策 ・ 有志数人による防災についての作文発表 ・ 建築家の栗生氏から防災について建築サイドでの話 ・ 石井氏から建築に関して防災の話のまとめ ・ 桜木先生によるまとめ <p>(第2日め終了)</p>	   	

